

個別施策	③	子どものこころと身体の健康づくりの推進	主管課	健康課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	◎	子育てに向き合うこと、子育ての大事さについて、4か月児健康診査時に子育て親育ち推進会議委員(生涯学習課)によるミニ講座と年1回妊婦や関心のある人に講演会を実施した。食育に関しては、保健センター内で教室を実施したほか食生活改善推進員や保健推進員の協力のもと地域でも取り組んだ。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	食育の実施回数(食生活推進員、保健推進員協力も含む。)		回	H22	3	6	8	—	8				
4か月児健康診査での子育て親育ちミニ講座の実施回数		回	H22	12	6	24	—	24					
事業	事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニファスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	楽しく食育	—	—	—	—	○	—	14千円	16千円	30千円	維持	—
	2	4か月児健康診査での子育て親育ちミニ講座	—	—	—	—	○	—	0千円	23千円	23千円	維持	—
3													

個別施策	④	親への健康教育の推進	主管課	健康課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	乳幼児健康診査、各種教室、第1子訪問等で親への健康教育を実施し、健康診査やがん検診の受診勧奨をした。プレママと新米ママ教室では、減塩味噌汁の試食や簡単メニューを提案し、食生活についての振り返りを促した。2歳6か月児親子歯科健康診査では、親の歯科健診実施後に個別指導で予防につなげ、今後も継続実施する。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	親への健康教育(定例母子健康手帳交付数、プレママと新米ママ教室)参加者数		人	H21	566	477	478	—	600				
2歳6か月児親子歯科健康診査親の受診者数		人	H21	129	197	197	—	220					
事業	事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニファスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	定例母子健康手帳交付	—	—	—	○	○	—	74千円	284千円	358千円	維持	—
	2	プレママと新米ママの母親教室	—	—	—	○	○	—	47千円	54千円	101千円	維持	—
3	2歳6か月児親子歯科健康診査	—	○	—	○	○	—	434千円	471千円	905千円	維持	—	

単位施策評価シート(平成24年度実施施策)

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 17 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	1	健康
基本施策	2	成人の健康づくり	単位施策	(3)	高齢者・中高年の介護予防・健康づくり支援
主管課	健康課		関連課	-	
現状と課題	総合計画書 ページ番号 64				
現状と課題	・いつまでも要介護状態にならないように、運動・栄養・口腔面から介護予防に取り組み、中高年の健康づくりを推進している。元気アップ高齢者対象の介護予防教室では、介護福祉課や地域包括支援センターと連携し実施した。介護予防は、早期から継続して行ってこそ効果があるので、今後も継続して推進していく。 ・いきいきウォーキングは月4回地域で行っており、参加年齢構成は、65歳以上が8割を占め、参加実人数、延人数はともに減少傾向である。ウォーキングは自分のペースで気軽に行えるため、参加勧奨を積極的に行う。 ・65歳節目歯科健康診査は、個人通知後、電話による受診勧奨も行っているが受診率が伸びていないのが課題である。				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	○	元気アップ高齢者を対象とした介護予防教室の実施、一般高齢者を対象としたウォーキング、歯科健康診査、健康教育を実施し、高齢者・中高年の介護予防・健康づくりを支援した。しかし、元気アップ高齢者以外の介護予防事業は、参加(受診)人数が減少している傾向にあるため、取組方法の検討が必要である。
今後の取組	・元気アップ高齢者に関する事業については、引き続き介護福祉課と連携し取り組む。 ・いきいきウォーキングは、高齢者の参加が多いため、高齢者が継続して参加できるようにウォーキング前後の健康観察やストレッチの実施、その人に合ったウォーキング速度をアドバイスするなど配慮するとともに、新規参加者の増加のために保健センター事業において参加勧奨を積極的に行う。 ・65歳以上の方の運動習慣を確立し、健康増進・維持を図るために新たに総合体育文化センタートレーニング室を利用し、介護予防に取り組む。	

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	60歳以上で1日30分以上歩く人の割合	%	H21	60.9	-	-	-	65.0
	治療目的以外に定期的に歯科の健康診査を受けている市民の割合	%	H22	31.5	-	-	-	33.0
	介護予防教室参加者数	人	H21	212	402	412	-	445

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	高齢者・中高年の介護予防・健康づくり支援	主管課	健康課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	元気アップ高齢者を対象とした介護予防教室の実施、一般高齢者を対象としたウォーキング、歯科健康診査、健康教育を実施し、高齢者・中高年の介護予防・健康づくりを支援した。しかし、元気アップ高齢者以外の介護予防事業については、参加人数が減少している傾向にあるため取組方法の検討が必要である。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	いきいきウォーキング参加者数		人	H21	637	555	472	-	600				
	介護予防教室参加者数		人	H21	212	402	412	-	445				
65歳節目歯科健康診査受診率		%	H21	12.5	11.4	7.6	-	14.0					
事業	事務事業名		事業種類					投入コスト			今後の方向性	重点化	
			新規	主要	マニピュレーター	実計	予算	その他	事業費	人件費			計
	1	いきいきウォーキング	-	○	-	-	-	○	0千円	96千円	96千円	維持	-
	2	元気アップ高齢者対象教室(運動・歯科・栄養・認知症)	-	-	-	-	○	-	268千円	398千円	666千円	維持	○
3	65歳節目歯科健康診査	-	○	-	○	○	-	375千円	125千円	500千円	維持	-	

単位施策評価シート(平成24年度実施施策)

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 17 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	1	健康
基本施策	3	医療・感染症予防	単位施策	(1)	医療体制の充実
主管課	健康課		関連課	—	
				総合計画書 ページ番号	67
現状と課題	<p>・救急医療体制として、休日急病診療所のほか、近隣市町の3病院を第2次救急医療機関に指定し、休日・夜間救急医療体制の充実を図っている。小児救急医療においても、尾北医師会及び岩倉市医師会の小児科医の連携により、小児専門医による小児救急外来が設置されている。</p> <p>・災害時の保健活動は、平常時の整備が重要であるため、平常時の情報収集や研修で得た情報等を活かし、岩倉市の災害保健活動マニュアルを改訂し職員に配付した。平成25年度には、愛知県の災害時保健マニュアルの改訂を受け、更なる見直しが必要である。</p>				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	○	医療施設は、近年新たな診療所も開設され、診療科目も充実している。
今後の取組	<p>・各種検診時や広報、ホームページ等を利用して、市内や近隣市町の医療機関、救急医療、小児救急外来、医療情報についての情報を周知する。</p> <p>・災害発生時に感染症のまん延防止対策や被災者の健康管理を迅速・的確に対応できるように、平常時からの情報収集を引き続き行い、保健所等との連携強化を図る。</p>	

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	休日急病診療所を知っている市民の割合	%	H22	85.2	—	—	—	92.0
	かかりつけ医を持っている市民の割合	%	H22	66.5	—	—	—	70.0
	第2次救急医療機関数	か所	H22	3	3	3	—	3

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	市民にわかりやすい医療情報の提供	主管課	健康課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	広報等を利用して、市内や近隣市町の医療機関、救急医療、小児救急外来の情報をわかりやすく提供している。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	広報紙による医療情報提供回数		回	H22	24	24	24	—	24				
事業事業	事業事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	広報掲載	—	—	—	—	—	○	0千円	46千円	46千円	維持	—
	2												
3													

個別施策	②	休日・夜間救急医療体制の維持・充実	主管課	健康課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	休日急病診療所のほか、第2次救急医療機関の指定により体制の充実を図っている。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	第2次救急医療機関数		か所	H22	3	3	3	—	3				
	休日急病診療所受診者数		人	H22	1,157	1,185	1,367	—	1,200				
事業事業	事業事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	休日急病診療所運営事業	—	○	—	—	○	—	14,757千円	371千円	15,128千円	維持	○
	2	第2次救急医療対策費補助金事業	—	—	—	—	○	—	6,244千円	15千円	6,259千円	維持	—
3	小児救急医療対策費補助金事業	—	—	—	○	○	—	1,033千円	15千円	1,048千円	維持	—	

単位施策評価シート（平成24年度実施施策）

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 24 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	2	市民福祉
基本施策	1	高齢者福祉・介護保険	単位施策	(2)	高齢者が安心して生活できる環境づくり
主管課	介護福祉課		関連課	—	総合計画書 ページ番号 71
現状と課題	<p>・本市の平成25年4月1日現在の高齢者数は10,495人、高齢化率は22.0%となっており、年々右肩上がりに増加している。そのなかで、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯は急増しており、高齢者の孤立死も発生している。</p> <p>・65歳以上の10人に1人が認知症状が見受けられるという報告もあり、高齢者世帯と認知症高齢者への対応は、高齢者福祉にとって大きな課題となっている。高齢者が在宅で安心して日常生活が送れるよう、ニーズに合った生活支援サービスの充実が望まれている。</p> <p>・介護を受けている高齢者への虐待や、悪質商法の相談も発生しており、虐待防止や成年後見制度の活用など、高齢者の尊厳と権利を擁護するための積極的な取組が求められている。</p>				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	○	認知症への理解促進のため、新たに中学生・高校生を対象とした講座を行った。さくらの家で高齢者から子どもまで参加するふれあい交流会を開催し、多世代の交流を図った。また、地区ふれあいいきいきサロン活動として新たに鈴井町で開始した。あいち介護予防支援センターからの高齢者虐待対応専門チームの派遣により困難ケースの問題解決を図った。緊急通報システム・給食サービス等を実施し、高齢者の生活支援に努めた。
今後の取組	<p>・認知症に対する理解促進のため、地域や事業所を対象に認知症サポーター養成講座を実施する。また、小学生向けの寸劇や紙芝居による養成講座や新たな取組であるに中学生や高校生を対象とした養成講座を行い、幅広い世代に対する理解の促進を図る。さらに少人数を対象とした車座的な講座を積極的にPRする。</p> <p>・認知症高齢者等が徘徊した際に迅速に対応するため、協力機関や連絡網の整備を拡大するとともに、徘徊捜索模擬訓練を行う。また、広域的な対応について研究する。</p> <p>・高齢者の権利擁護の推進のため、地域包括支援センターと連携するとともに、広報紙やホームページ等を通して、周知・啓発活動に努めていく。</p> <p>・高齢者の地域における交流促進のため、地区サロン活動の増設に努める。</p> <p>・高齢者の生活支援サービス充実のため、給食サービスのあり方や緊急通報システムの更新について研究する。</p>	

3 単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	認知症サポーター養成講座受講者数	人	H21	1,642	2,753	3,340	—	2,000

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	高齢者や認知症に対する理解促進・敬愛意識の高揚	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	◎	認知症に対する理解促進のため、新たに中学生や高校生を対象とした認知症サポーター養成講座を行った。また、ドキュメンタリー映画の上映会を開催するとともに、認知症サポーターのマスコットであるロボ隊長のストラップを作成しイベント内で配布した。認知症高齢者が徘徊した際に車両に貼り付けて検索するマグネットシートを作成し、協力機関に配布した。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
	認知症サポーター養成講座受講者数		人	年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
				H21	1,642	2,753	3,340	—	2,000				
事業事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	サブ	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	高齢者地域見守り事業	—	—	—	○	○	—	415千円	835千円	1,250千円	維持	○
	2												
	3												

個別施策	②	高齢者の地域における交流促進	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	さくらの家で多世代交流の一環として、高齢者から子どもまで参加するふれあい交流会を開催した。また地域における交流の場として、社会福祉協議会の支会ごとのふれあいいきいきサロン活動に加え、地区での開催として地区ふれあいいきいきサロン活動を、既に実施している中本町に加え、新たに鈴井町で開始した。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
	地区ふれあいいきいきサロン(社会福祉協議会支援)箇所数		か所	年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
				H22	—	1	2	—	15				
	南部老人憩の家年間利用人数		人	H21	23,584	24,636	24,582	—	27,000				
さくらの家年間利用人数(子供ルーム利用者を含む)		人	H21	—	40,055	54,264	—	45,000					
事業事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	サブ	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	多世代交流センター運営費	—	—	—	—	○	—	4,640千円	464千円	5,104千円	維持	—
	2	ふれあい広場等施設管理費	—	—	—	—	○	—	2,128千円	557千円	2,685千円	維持	—
	3	ふれあいいきいきサロン事業	—	—	—	—	○	0千円	232千円	232千円	拡大	—	

個別施策	③	高齢者の権利擁護・虐待防止	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	高齢者虐待対応専門チームの派遣をあいち介護予防支援センターに依頼して、困難ケースの対応についてアドバイスを得ることで問題の解決に繋がるとともに、担当者の識見が高まった。また、広報紙やホームページなどを通じ、高齢者の権利擁護や虐待防止に関する市民への周知・啓発に努めた。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	市長申立てによる成年後見審判請求件数		件	H22	1	1	1	—	3				
事務事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニファスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	高齢者権利擁護事業	—	—	—	—	○	—	12千円	1,489千円	1,501千円	維持	—
	2												
3													

個別施策	④	高齢者の生活支援サービスの充実	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	ひとり暮らし高齢者等を対象として安心して日常生活を送ることができるよう、緊急通報システム、給食サービス等を実施している。また、平成23年度に引き続き高齢者等救命ボタンを周知し配布を行った。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	給食サービス利用者数		人	H22	130	128	126	—	130				
	緊急通報システム設置台数		台	H22	207	197	195	—	200				
救命ボタン配布(累計)		本	H23	—	594	842	—	2,000					
事務事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニファスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	在宅福祉事業	—	—	—	—	○	—	10,270千円	1,671千円	11,941千円	維持	—
	2	緊急通報システム管理事業	—	○	—	○	—	—	3,713千円	928千円	4,641千円	維持	—
3	高齢者等救命ボタン事業	—	—	—	—	—	○	0千円	116千円	116千円	維持	—	

単位施策評価シート（平成24年度実施施策）

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 24 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	2	市民福祉
基本施策	1	高齢者福祉・介護保険	単位施策	(3)	高齢者を支える体制の充実
主管課	介護福祉課		関連課	-	
現状と課題	・地域包括支援センターや民生委員による介護予防対策や高齢者見守りは行われている。高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯が急激に増加しており、高齢者の生きがいづくりや介護予防のための対策、孤立死を出さないための地域での高齢者への見守りが一層必要となる。 ・平成23年度に地域包括支援センターを中心として、介護事業所・警察・消防署などで組織される徘徊SOSネットワークを構築し、認知症高齢者の支援に努めている。				
総合計画書ページ番号	72				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	○	評価理由	地域包括支援センター職員(社会福祉士)が1名増員され、体制の強化が図られた。また、地域包括支援センターによる高齢者実態把握により、高齢者の在宅支援に努めている。民生委員・新聞販売店・給食サービスによる見守りに加えて、郵便事業での見守りも新たに加わり、見守り体制の充実が図られた。
	今後の取組	・高齢者の見守りを強化するため、交通機関・商店・コンビニなど見守り協力事業者の拡大に努めていく。 ・高齢者の増加に伴い、地域包括支援センターの体制強化を今後も進めていく。		

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	ひとり暮らし高齢者等の実態把握調査実施件数	件	H21	430	465	422	-	1,500
	見守りをされているひとり暮らし高齢者等の数	世帯	H21	498	497	542	-	1,000

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	地域包括支援センターの体制強化	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	○	評価理由										
	地域包括支援センターの職員(社会福祉士)が1名増員され、体制の強化が図られた。保健・医療・福祉の関係機関との連携を図るため会議を開催し、ネットワークの推進を図った。												
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
	地域包括支援センターの正規職員一人当たりの高齢者数		人	H22	3,184	3,235	2,498	-	1,500				
事業事業	事業事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	地域包括支援センター運営事業委託事務	-	○	-	○	○	-	32,809千円	155千円	32,964千円	維持	-
	2												
3													

個別施策	②	地域における見守り・支援体制づくり	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	○	評価理由										
	地域包括支援センターの高齢者実態把握により高齢者の在宅支援に努めている。民生委員・新聞販売店・給食サービスによる見守りに加えて、郵便事業での見守りも新たに加わり、見守り体制の充実が図られた。また、地域包括ケアシステムについて、構築に向けた研究を開始した。												
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
	ひとり暮らし等の高齢者等の実態把握調査実施件数		件	H21	430	465	422	-	1,500				
	見守りをされているひとり暮らし高齢者等の数		世帯	H21	498	497	542	-	1,000				
	緊急通報設置台数		台	H21	207	197	195	-	200				
事業事業	事業事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	ひとり暮らし高齢者等実態把握事業	-	○	-	-	○	-	2,022千円	46千円	2,068千円	維持	-
	2	高齢者地域見守り事業	-	○	-	-	○	-	0千円	232千円	232千円	拡大	○
3	緊急通報システム管理事業	-	-	-	○	○	-	3,713千円	453千円	4,166千円	維持	-	

単位施策評価シート(平成24年度実施施策)

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 24 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	2	市民福祉
基本施策	3	障害者(児)福祉	単位施策	(2)	障害者の社会参加促進
主管課	介護福祉課		関連課	-	
現状と課題	・ハローワーク、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターようわと連携し、雇用の促進や就労、職業定着に関する支援を行っている。 ・スポーツ・文化活動等に親しめる機会を促進するため、社会福祉協議会等が実施する障害者スポーツ教室、ゆめコンサート、スポーツフェスティバルなどの社会参加事業への支援に努めている。 ・障害者の就労意欲の向上と継続的な就労活動を支援するため、就労移行支援、就労継続支援などの訓練等給付を利用できるよう努めている。				
	総合計画書 ページ番号				82

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	○	相談支援事業により、一般就労を希望する障害者への就労移行支援や、通常の事業所で働くことが困難な人には、市内の就労継続支援事業所(B型)、生活介護事業所といった福祉的就労の場への利用支援を行った。障害者のふれあい桜見会の開催や障害者スポーツ教室の内容の充実やPRに努めている。
	今後の取組		・ハローワーク、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターと連携し、雇用の促進や就労、職業定着に関する支援を行う。 ・スポーツ・文化活動等に親しめる機会を促進するため、社会福祉協議会等が実施する社会参加事業への支援に努める。

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	障害者のスポーツ・文化行事への参加者数	人	H21	278	194	317	-	310

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	就労の支援	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	○	相談支援事業により、一般就労を希望する障害者への就労移行支援や、通常の事業所で働くことが困難な人には、市内の就労継続支援事業所(B型)、生活介護事業所といった福祉的就労の場への利用支援を行った。										
	指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値				
		障害者相談による就労相談件数	件	H21	15	26	23	-	-				
事業事業	1	就労相談事業	事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	フォローアップ	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
			-	-	-	-	-	○	0千円			55千円	55千円
	2												
	3												

個別施策	②	スポーツ・文化活動等への参加促進	主管課	介護福祉課									
評価及び理由	評価	○	スポーツに親しめる機会を拡大するため、社会福祉協議会が主催する障害者スポーツ教室の充実やPRの支援に努め、参加者数が増加している。										
	指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値				
		障害者のスポーツ・文化行事への参加者数	人	H21	278	194	317	-	310				
事業事業	1	障害者社会参加周知事務	事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	フォローアップ	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
			-	-	-	-	-	○	0千円			10千円	10千円
	2												
	3												

単位施策評価シート（平成24年度実施施策）

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 16 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	3	社会保障
基本施策	1	福祉医療	単位施策	(1)	福祉医療費助成制度の充実
主管課	市民窓口課		関連課	-	
現状と課題	総合計画書 ページ番号 89				
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の平成24年度子ども医療費助成制度は、中学校3年生までの入院・通院の自己負担分を助成している。 ・福祉医療費助成制度は、自治体の規模や財政状況等によって助成範囲に格差が生じ、その不公平感が指摘されているところである。 ・雇用状況の悪化や景気の低迷が続く中で、制度の維持・拡大に関しては今後も要望が高まってくる考えられる。 				

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	◎	助成範囲の拡大により、社会的、経済的に弱い立場にある高齢者、障害者、子ども及び母子家庭等に対する福祉増進が図られている。
今後の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県は、市町村に対する福祉医療費助成について、一部負担金(平成26年度)と所得制限(平成29年度)の実施を検討している。 ・一部負担金は、①定額負担とすること、②受診機会の多い者に過大な負担とならないこと、③院内、院外処方の公平の観点から調剤は除くこと、④低額所得者(市町村民税非課税世帯)は全額免除すること、という方向性が示されている。 ・所得制限は、①マイナンバー制度実施後(平成29年度を想定)に導入する、②既の実施されている所得制限は現行どおり継続する、③新たに実施する部分は他都道府県で用いられている所得制限を準用する、という方向性が示されている。 ・県の制度改正に対し、①県へ現行制度の維持を要望していくべきか、②一部負担金及び所得制限の実施があった場合、市単独で現行制度を維持するべきか、今後の対応を検討していく。

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
			子ども医療費助成の拡大	学年	H22	小3まで	小6まで	中3まで
精神障害保健福祉手帳1・2級所持者の一般医療分助成の拡大	補助率	H22	半額	半額	全額	-	全額	
精神障害及び精神障害者福祉に関する法律第5条該当者の精神医療分(入院)の拡大	補助率	H22	半額	半額	全額	-	全額	

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	福祉医療費助成制度の充実	主管課	市民窓口課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	◎	助成範囲の拡大により、社会的、経済的に弱い立場にある高齢者、障害者、子ども及び母子家庭等に対する福祉増進が図られている。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	子ども医療費助成の拡大		学年	H22	小3まで	小6まで	中3まで	-	中3まで				
	精神障害保健福祉手帳1・2級所持者の一般医療分助成の拡大		補助率	H22	半額	半額	全額	-	全額				
精神障害及び精神障害者福祉に関する法律第5条該当者の精神医療分(入院)の拡大		補助率	H22	半額	半額	全額	-	全額					
事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費			人件費	計
	1	子ども医療費助成事業	-	○	-	○	○	-	229,696千円	2,476千円	232,172千円	維持	-
	2	障害者医療費支給事業	-	○	-	○	○	-	118,525千円	2,476千円	121,001千円	維持	-
3	後期高齢者福祉医療費支給事業	-	○	-	○	○	-	80,268千円	2,476千円	82,744千円	維持	-	

単位施策評価シート（平成24年度実施施策）

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 16 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	3	社会保障
基本施策	1	福祉医療	単位施策	(2)	福祉医療費助成制度の周知と適正化
主管課	市民窓口課		関連課	-	
現状と課題	・福祉医療費助成制度は、広報(年2回)やホームページで制度全般についての記事を掲載したり、窓口における手続きの際にチラシを配布するなど、周知に努めている。しかし、対象者全てが申請済みとはなっておらず、今後いかに未申請者を減らしていくかが課題となっている。				
				総合計画書 ページ番号	89

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	◎	未申請者に対して個別に連絡を取り申請を促し、制度の周知と適正化に努めた。
今後の取組	・福祉医療担当がそれぞれの法別の関係部署(児童家庭課、介護福祉課など)と密に連携を取り、対象者の正確な把握と制度の周知に努め、新たな未申請者の発生を防ぐ。未申請者には、引き続き個別に連絡を取り申請を促していく。	

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
			子ども医療受給者率	%	H22	93.3	93.3	99.9

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	福祉医療費助成制度の周知と適正化	主管課	市民窓口課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	◎	未申請者に対して個別に連絡を取り申請を促し、制度の周知と適正化に努めた。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	子ども医療受給者率		%	H22	93.3	93.3	99.9	-	100.0				
事務事業	事務事業名		事業種類					投入コスト			今後の方向性	重点化	
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	子ども医療費助成事業	-	-	-	○	○	-	229,696千円	2,476千円	232,172千円	維持	○
	2	障害者医療費支給事業	-	-	-	○	○	-	118,525千円	2,476千円	121,001千円	維持	-
3	後期高齢者福祉医療費支給事業	-	-	-	○	○	-	80,268千円	2,476千円	82,744千円	維持	-	

単位施策評価シート(平成24年度実施施策)

1 単位施策の情報

【評価日】 H25 年 4 月 16 日

章	1	安心していきいきと暮らせるまち	節	3	社会保障
基本施策	3	公的医療保険・年金	単位施策	(2)	公的医療保険・年金制度の周知・啓発
主管課	市民窓口課		関連課	-	
現状と課題	・公的医療保険・年金ともに、雇用環境の悪化による保険料の滞納や、若い世代の保険料納付への意識が希薄化しており、納付率も低迷している。 ・公的医療保険では、制度の周知が行き届いていないことによる、保険の資格未届での受診の問題や、医療費の増大など公的医療保険制度の一層の周知が必要となっている。				
				総合計画書 ページ番号	93

2 単位施策の評価と今後の取組

評価及び理由	評価	評価理由
	○	3月・4月にホームページのトップページに新着情報として載せるなど、これまでの広報、ホームページの周知について新たな取り組みをした。また、成人式で保険・年金制度のパンフレットを配布した。
今後の取組	・公的医療保険制度の周知については、窓口でパンフレット等の配布を行い積極的な周知に努めるとともに、公的医療保険の異動が多い3月・4月には集中的に広報・ホームページ等で制度の周知を図る。 ・若年層が集まる成人式で公的医療保険・年金制度のパンフレットを配布する等により、納付意識の向上と制度の周知に努める。	

3 単位施策の成果指標(総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載)

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	広報での周知	回	H22	7	7	13	-	7
	成人式での周知	回	H22	0	-	1	-	1

4 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	公的医療保険・年金制度の周知・啓発	主管課	市民窓口課									
評価及び理由	評価	評価理由											
	○	ホームページの周知について、3月・4月にホームページのトップページに新着情報として載せるなど周知に努めた。また、成人式で保険・年金制度のパンフレットを配布した。											
指標情報	指標名		単位	基準値		現状値			目標値				
				年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)				
	広報での周知		回	H22	7	7	13	-	7				
	成人式での周知		回	H22	0	-	1	-	1				
年金相談人数		人	H22	169	132	126	-	300					
事業	事務事業名		事業種類				投入コスト			今後の方向性	重点化		
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	その他	事業費	人件費	計		
	1	疾病予防パンフレット	-	-	-	-	○	-	640千円	87千円	727千円	維持	-
	2	年金啓発物品	-	-	-	-	○	-	45千円	6千円	51千円	維持	○
3	国民年金相談事務	-	-	-	-	○	-	193千円	58千円	251千円	維持	-	

